

SPA8000電話アダプタのその他の地域設定

目的

その他の地域設定は、SPA8000の日付、タイムゾーン設定、およびその他の各種設定をカスタマイズするために使用されます。これらの設定は、夏時間ルール、タイムゾーン、発信者ID、DTMF、FXSなどの機能のカスタマイズに役立ちます。このドキュメントでは、SPA8000のさまざまな各種設定を変更する手順について説明します。

該当するデバイス

- SPA8000

[Software Version]

- 6.1.12

その他の地域設定

ステップ1：管理者としてWeb構成ユーティリティにログインし、[Advanced] > [Voice] > [Regional]を選択します。[地域]ページが開きます。

Network		Voice																	
Info	System	SIP	Provisioning	Regional	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	T1	T2	T3	T4	Trunk Status		
																	User Login	basic	advance
Call Progress Tones																			
Dial Tone:	350@-19,440@-19;10(*0/1+2)																		
Second Dial Tone:	420@-19,520@-19;10(*0/1+2)																		
Outside Dial Tone:	420@-16;10(*0/1)																		
Prompt Tone:	520@-19,620@-19;10(*0/1+2)																		
Busy Tone:	480@-19,620@-19;10(.5/.5/1+2)																		
Reorder Tone:	480@-19,620@-19;10(.25/.25/1+2)																		
Off Hook Warning Tone:	480@-10,620@0;10(.125/.125/1+2)																		
Ring Back Tone:	440@-19,480@-19;*(2/4/1+2)																		
Ring Back 2 Tone:	440@-19,480@-19;*(1/1/1+2)																		
Confirm Tone:	600@-16;1(.25/.25/1)																		
SIT1 Tone:	985@-16,1428@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)																		
SIT2 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.274/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)																		
SIT3 Tone:	914@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.380/0/2,.380/0/3,0/4/0)																		
SIT4 Tone:	985@-16,1371@-16,1777@-16;20(.380/0/1,.274/0/2,.380/0/3,0/4/0)																		
MWI Dial Tone:	350@-19,440@-19;2(.1/.1/1+2);10(*0/1+2)																		
Cfwd Dial Tone:	350@-19,440@-19;2(.2/.2/1+2);10(*0/1+2)																		
Holding Tone:	600@-19;*(.1/.1/1,.1/.1/1,.1/9.5/1)																		
Conference Tone:	350@-19;20(.1/.1/1,.1/9.7/1)																		
Secure Call Indication Tone:	397@-19,507@-19;15(0/2/0,.2/.1/1,.1/2.1/2)																		
Feature Invocation Tone:	350@-16;*(.1/.1/1)																		

Miscellaneous			
Set Local Date (mm/dd):		Set Local Time (HH/mm):	
Time Zone:	GMT-08:00 ▾	FXS Port Impedance:	600 ▾
Daylight Saving Time Rule:	start=4/1/7;end=10/-1/7;save=1		
Daylight Saving Time Enable:	yes ▾	FXS Port Input Gain:	-3
FXS Port Output Gain:	-3	DTMF Playback Level:	-16
DTMF Playback Twist:	1.3	DTMF Playback Length:	.1
Detect ABCD:	yes ▾	Playback ABCD:	yes ▾
Caller ID Method:	Bellcore(N.Amer,China) ▾	Caller ID FSK Standard:	bell 202 ▾
Feature Invocation Method:	Default ▾	More Echo Suppression:	no ▾
Undo All Changes		Submit All Changes	

[Miscellaneous]領域で、次の操作を行います。

ステップ2:[Set Local Date (mm/dd)]フィールドに日付を入力して、デバイスに日付を設定します。日付の形式は、月/日(mm/dd)です。

ステップ3:[Set Local Time (HH/mm)]フィールドに現在の時間を入力して、デバイスの時刻を設定します。時間の形式は、時間/分(HH/mm)です。

ステップ4:[Time Zone (タイムゾーン)]ドロップダウンリストから、場所に応じたタイムゾーンを選択します。

ステップ5:[FXS Port Impedance]ドロップダウンリストからFXSポートの電気インピーダンスを選択します。Foreign Exchange Station(FXS)インターフェイスは、電話機またはファックス機器に直接接続し、呼出音、電圧、ダイヤルトーンを供給します。

ステップ6：デバイスに適用する夏時間ルールを[Daylight Saving Time Rule]フィールドに入力します。これには、夏時間の開始、終了、および保存値が含まれます。設定：start=mm/day/(weekday);end=mm/day/(weekday);save=time。次のフィールドでは、夏時間ルールの形式について説明します。

- ・ mm — 1から12までの範囲の月を入力します。たとえば、1月は1です。
- ・ Day – 月の日を1 ~ 31の範囲で入力します。値は最終値時間で負の値にすることができます。これは、保存が1日の終わりに開始されることを示します。
- ・ 平日：時間の節約を開始する曜日を入力します（月曜日～日曜日）。
- ・ Time – クロックを戻す時間または進む時間を入力します。これらの時間は、それぞれ負または正の数値で表すことができます。たとえば、「-1:15:25」を使用してクロックを1時間15分25秒に戻し、「+1:15:25」を使用して1時間15分25秒にクロックを転送します。

ステップ7:[Daylight Saving Time Enable]ドロップダウンリストで夏時間ルールを有効または無効にするには、[yes]または[no]を選択します。

ステップ8:[FXS Port Input Gain]フィールドに入力ゲインをdBで入力します。FXS Port Input Gainは、リモートパーティが聞く音量を制御します。小数点以下3桁まで書くことができます。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

ステップ9:[FXS Port Output Gain]フィールドに出力ゲインをdBで入力します。[FXS Port Output Gain]は、ユーザが聞く音量を制御します。小数点以下3桁まで書くことができます。範囲は6.000 ~ -12.000です。デフォルトでは-3に設定されています。

ステップ10:[DTMF Playback Level]フィールドにローカルDTMF再生レベルをdBmで入力します。小数点以下1桁まで書くことができます。デフォルトでは-16.0に設定されています。

デュアルトーン多重周波数(DTMF)は、電話機のキーを押したときに電話機が生成する信号です。押されたキーは、それぞれ特定の周波数の2つのトーンを生成します。

ステップ11:[DTMF Playback twist]フィールドにDTMF再生ツイストレベルをdBmで入力します。DTMFツイストレベルは、トーンの変更に使用される周波数を生成します。たとえば、トーンが低い周波数-8を使用し、ツイストレベルが2の場合、新しいトーンの周波数は6高くなります。

ステップ12:[DTMF Playback Length]フィールドで、DTMFに割り当てるローカルDTMF再生時間をミリ秒単位で入力します。

ステップ13:[Detect ABCD]ドロップダウンリストから[DTMF ABCD]のローカル検出を有効にするには、[yes]を選択します。この機能により、SPA8000に接続されたデバイスは、ABCDキーを使用してネットワークを制御できます。

ステップ14:[Playback ABCD]ドロップダウンリストから[OOB DTMF ABCD]のローカル再生を有効にするには、[yes]を選択します。

ステップ15:[Caller ID Method]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID方式を選択します。この機能により、コールのサードパーティは、コールの発信に使用される電話機のIDを確認できます。使用できる方法はいくつかあります。

- ・ ベルコア (中国、北米) :CID、CIDCW、VMWI。最初のリングの後に送信されるFSK (最初のリングの後に送信されるETSI FSKと同じ) (極性反転またはDTASなし) 。
- ・ DTMF (フィンランド、スウェーデン) :CIDのみ。DTMFは、極性反転 (およびDTASなし) の後、最初のリングの前に送信されます。
- ・ DTMF (デンマーク) :CIDのみ。DTMFは、極性の反転がなく、DTASのない最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF:CIDのみ。DTASの後 (および極性反転なし) および最初のリングの前に送信されるDTMF。
- ・ PR付きETSI DTMF:CIDのみ。DTMFは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。
- ・ ETSI DTMF After Ring — CIDのみ。最初のリングの後に送信されるDTMF (極性反転またはDTASなし) 。
- ・ ETSI FSK:CID、CIDCW、およびVMWI。FSKはDTASの後 (ただし、極性反転は行わない) 、最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。
- ・ PR付きETSI FSK (英国) :CID、CIDCW、VMWI。FSKは、極性反転とDTASの後、および最初のリングの前に送信されます。CIDCWのDTASの後、CPEからのACKを待機します。極性反転は、機器がオンフックの場合にのみ適用されます。
- ・ PR付きDTMF (デンマーク) :CIDのみ。DTMFは、極性反転 (およびDTASなし) の後、最初のリングの前に送信されます。

ステップ16:[Caller ID FSK]ドロップダウンリストから、コールに適用する発信者ID FSK標準を選択します。周波数シフトキー(FSK)は、コールのサードパーティに送信されたIDを表示するためにデバイスに使用されます。

ステップ17:[Feature Invocation Method]ドロップダウンリストから、[Sweden default]また

は[Default to use for feature Invocation]を選択します。

ステップ18:[More Echo Suppression]ドロップダウンリストから[yes]を選択してエコー抑制を有効にします。エコー抑制機能は、コールで発生するエコーを除去します。この機能により、コールのパフォーマンスが向上します。

ステップ19:[Submit All Changes]をクリックして、設定を保存します。